

平成 29 年度

華服飾専門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

平成 30 年 9 月 28 日

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

学園の「建学の精神」に則り、理念・目的は明確に定められ「学則」において明文化されている。また育成人材像、具体的な運営方針、教育方針を別途定めている。育成人材像は、「時代の求める職業人」であり、服飾関連業界等が求める知識・技術、および社会人基礎力等、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会の提言を取り入れて定めている。専門知識、技術はもとより社会人基礎力（主にコミュニケーション能力と主体性）を高める為に、アクティブラーニング、オリジナルプランニング等を取り入れ、特色ある教育活動に取り組んでいる。平成28年度に学園創立70周年を迎え、将来を見据えた中期3ヶ年経営計画を策定して、『学生第一』主義のもと、学園本部機能の強化、教育システムの充実、教員の資質向上、学生のための設備の検討の4本柱を示した。それを平成29年度の重点目標、具体的な活動計画に落とし込み活動した。また、カリキュラムの大幅な見直しを行い、平成29年度学則変更をして新カリキュラムでの運用を開始した。

基準2 学校運営

自己評価結果

理念、育成人材像を踏まえ、教育方針の実行、華ブランドの構築、教育システムの確立を運営方針として校長が定めている。中期3ヶ年経営計画および前年度の事業計画の実施状況、その反省に基づく改善を行い、重点目標を踏まえ事業計画を立案している。その進捗状況に関しては、定例会で確認をして、推進会議で報告をしている。予算は事業計画に従い稟議書を作成して、経営会議の承認を経て執行している。学校法人における理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に行われ、必要に応じて臨時会議が行われている。学校における運営組織は明確化され、組織として整っている。各部署、各人の業務分担の明確化が重要で、別途各人の業務分担表を作成しているが、業務分担表に従って業務が完全に行われているとは言えない。給与に関しては「華学園給与規程」に基づき運用している。従来の月給制による定期昇給制度から、より適正な年俸制による新たな制度への見直しを行う。意思決定に関しては稟議が行われ、決定の課程は稟議書として記録している。承認がおりた段階で起案者に連絡されるシステムが確立されている。現在の情報管理システムに関しては各校、各部署で別々に管理しており、合理的かつ一元的な管理ができていない。今後は志願者から在校生、卒業生に至るまで、一貫して管理できる情報管理システムを構築し業務を効率化する。29年度より運用開始。

基準3 教育活動

自己評価結果

教育理念を基に、関連業界の方で構成される教育課程編成委員会での提言を受けて、教育課程を編成している。また『ADDIEモデル』の評価基準書をもとにH29年度からのカリキュラム見直しを行い学則変更した。学科・コース毎に評価基準書を策定し、評価基準書に準拠したシラバスに教育到達レベルを明記している。また単元の授業に関しても達成度確認方法を明記している。運営方針、教育方針を教育理念に沿って定め、教育課程を編成している。将来の職種を見据えて学科毎、コース毎に科目の設定やそれぞれの授業コマ数を設定している。関連業界の方で構成される教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会において、意見の聴取や検討を行い、教育課程に反映している。また企業の方との懇談会等も実施して意見を聞き教育課程に反映している。具体的には、専門科目に関しては基礎知識・技術の習得、それ以外で社会人基礎力の習得・向上が重要であるとの多数の意見があり、それを反映した教育課程を編成した。キャリア教育に関しては、就職ガイダンス、一般常識、ビジネスマナー等を実施している。さらに社会人基礎力向上のための科目を強化している。具体的な科目としては、「アクティブラーニング」「オリジナルプランニング」「LIFOプログラム」の3科目でグループディスカッション等のコミュニケーション能力の向上や主体性の育成を目的とした授業内容である。『ADDIEモデル』に関しては①評価基準書作成、②カリキュラム編成、③シラバス作成、④授業評価まで実施。授業評価に関しては、自己評価のみだったので、30年度は他己評価も検討。成績評価基準は学則に明記して学生便覧にも明記している。科目毎の評価の詳細はシラバスの評価方法に記載して実施している。取得目標の資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、関連する授業科目、特別講座の開設等も明確にしている。資格・免許取得のための事前授業や指導体制は整備されてお

り、補習等の不合格者への指導体制も整備されている。教員については専修学校設置基準の資格・要件を満たす教員を確保している。また、授業担当要件については、履歴書(専門性と担当科目も記載)、必要資格の確認及びその写しも管理している。教員の資質向上のため、関連業界と連携して研修を実施しているが、さらに業界で求められる知識、技能習得、教育力・指導力の質向上が必要である。必要なセミナー等への参加を促すと同時に、自己啓発で向上を図るよう指導している。教員の組織体制に関しては分野毎に必要な教員組織の体制を整備し、業務分担・責任体制等は組織図等で明確に定めている。今後は校長、教育部長、学科長というラインにより種々の事を決定、伝達、実施していく。

基準4 学修成果

自己評価結果

就職希望者に対する就職率は100%である。担任とキャリアセンターが連携し、学生の就職状況を把握している。就職活動の早期化に伴い、就職に対する早期意識付けを目的として、就職ガイダンスの授業を1年次後期より実施している。1年次2月には就職活動の為の研修を実施している。また、就職先として主要企業を15社設定し、企業との連携を図りながら就職活動支援を行っている。合格率も主要企業は71%となったが、その他企業は62%と低く全体の合格率向上が課題となった。また必ずしも希望職種への就職は出来ておらず、その実現の為の育成・指導が今後重要と考えている。取得目標の資格はコースにより異なり、各資格・免許の取得率は、合格実績と全国平均とを比較し、取得目標を決定している。合格率を上げる為の特別講座も開設している。技術系の検定は合格率も90%以上であるが、全員受験のファッションビジネス能力検定、ファッション色彩能力検定は合格率60%前後で、合格率を向上させる対策が今後の課題である。具体的にはファッションビジネス能力検定は、1年次の12月に受験させている。そこで不合格の学生は2年次の前期選択授業を受講させ(希望者)6月の検定試験に再チャレンジさせる。色彩検定対策は外部講師の為相談、検討する。今年度は離職率の把握が出来なかったので30年度に過去5年の卒業生の就職先に対して在籍調査を実施する。

基準5 学生支援

自己評価結果

毎週火・木曜日の朝、担任とキャリアセンターで意見交換を行い、求人情報の共有や希望者の有無等の情報共有を行っている。関連業界と連携し校内企業説明会を実施している。また就職指導(就職ガイダンス)の授業を設け、就職活動の流れから、実際の受験対策の指導(グループディスカッション、面接指導等)を行っている。受験先が決定したら、受験先に合わせた受験対策(面接指導等)を行っている。学生の出席状況に関しては毎日の出欠を担任が確認し、教務担当に報告を行う体制である。さらに月単位で学生の動向を報告書にまとめ、欠席や遅刻が目立つ学生は担任が面談を実施し学生個人カルテに記載して、指導経過記録として情報共有して活用している。まずは担任が個人の動向・変化をいち早く察知することが最も重要である。今年度退学者10名(前年度3名)と増加した。退学理由としては、進級・卒業不可(学費、出席日数不足)、進路変更に加え、体調不良が増加した。担任のきめ細やかな個人指導、保護者面談等に努めている。学生相談の対応窓口は担任としている。その内容は担任が指導記録(個人カルテ)に記載して、教員間、キャリアセンター、外部講師とも情報を共有して活用している。就職、学費については専門の担当者を置き、指導記録で情報共有し対応している。学費に関しては学校独自の特待生制度を設けており日本学生支援機構奨学金や各種教育ローンについては担当者が個別に対応している。奨学金制度・教育ローンについては入学案内に記載し入学前から周知している。学費納入に関しては分納制度を設け、個別の事情にも応じている。健康診断に関しては学校保健法に基づき、年1回4月に健康診断を行っている。有所見者については、予防措置、治療指示をしている。また学校医を選任している。遠隔地から就学する学生に対しては、関連企業と提携して寮を確保している。管理面においては、寮に常駐している管理人から定期的な報告を受け、生活指導に活かしている。経済的負担の軽減のための寮利用対象の奨学金制度がある。課外活動に関しては外部のファッションショーへの参加等については学校で把握し、支援を行っている。保護者に対しては保護者就職相談会を開催しており、教育活動の発信や就職相談等を行っている。学力不足や心理面の問題がある場合は、保護者と連携し保護者面談を1年次1月に実施している。緊急時の連絡体制も確保している。社会人への教育環境に関する特別な配慮は行っていないが、社会人入学者にも対応できるカリキュラムを編成しており個別相談に応じている。

基準6 教育環境

自己評価結果

設置基準、法令の基準に準じ、且つ教育上必要な設備を完備している。図書室においては、専門書の他にファッション誌の購入も行っている。学生の憩いの場として学生ラウンジを設けている。重点目標として、設備の充実を図っている。今年度は販売実習用の什器、実習用のウィッグ、ロックミシン、作業用ビニール版の入れ替えを行った。順次来年度も推進する。企業の現場見学（縫製工場、プリント工場等）・展覧会見学等、『実践教育の推進』を教育方針にも掲げ実行した。学生も興味を持って参加して効果があった。インターンシップに関しては受入れ先企業の指導者と事前に打ち合わせを行い、教育効果を高める実施体制の構築を図っている。インターンシップ先の企業には学生の評価を依頼し、評価を教育活動に反映している。ただし、現在インターンシップは正規の授業として教育課程上の位置づけはされていないので単位を与えられるよう単位制の導入を検討する。防災に関しては学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。年2回防火防災避難訓練を実施している。毎年新入生には防災グッズを配布し、飲料水、食料等の防災用品の備蓄を行っている。全ての校舎の耐震化を行い緊急地震速報の設置をして法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施して指摘事項は改善を行っている。安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定し対応している。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

高等学校の進学説明会に適宜に参加し、情報提供を行っている。入学者用パンフレットと募集要項を作成し、情報提供を行っている。また模擬授業も高校に出向き行っている。東京都専修学校各種学校協会の自主規制を遵守し、募集を行っている。志願者には専用窓口（入学相談室）を設け、適切に対応している。華の強みを在校生、卒業生へのアンケートで把握して、パンフレット、ホームページで『華が選ばれる7つの理由』としてアピールしている。入学選考基準、方法は規程で明確に定めており、募集要項に明記している。合否判定は入学選考委員会において、適切、公平に実施されている。学科毎の募集状況、合格率、辞退状況、出願者の成績等を活かし授業方法の改善を図っている。具体的には基礎学力の劣っている学生が多くみられるため、入学後基礎学力試験を行いそれを把握して、一般常識の授業で対応している。学納金の算定にあたっては消費税の変化、社会状況に鑑み、算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。在学中の学納金については全て募集要項に明記し、追加徴収がないよう心がけている。また教材費は別途徴収している（募集要項に明記）。入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。

基準8 財務

自己評価結果

応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握し、収支の均衡を保つため、学費改訂や設備投資を含め継続的に経営改善に取り組んでいる。顧問の公認会計士の指導を受けて各種資料を作成し、その内容や数値に関する情報およびその推移について把握することを十分に心がけている。単年度予算および中期計画を策定している。予算計画については、事業計画に基づく策定スケジュールに課題があり、検討が必要である。予算編成および予算執行全般について、さまざまな改善を実施したことで無駄な支出を防ぎ、経費節減を図っている。公認会計士による、日常および決算書類作成の会計指導が行われ、監事による会計監査を行っている。決算後には公認会計士から報告書が提出され指摘事項等について改善を図っている。私立学校法における財務情報公開の基準に沿って希望者への閲覧体制を整えている。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

学校教育法のもと、専門学校教育に関する各種法令、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。法令に基づく個人情報の取り扱いは適切に行っているが、規程整備にまで及んでいない。学生、卒業生データを電子化し保存しているので古いPCのリプレース、ウイルスソフトの完備等を行い一定の保護策を講じている。日常業務での個人情報取り扱いについては、個人責任に負うところが多い。今後は現在進めている学生システムの確立により実施する。自己評価について規程を定め実施している。

学校点検委員会を設置して、その内容を精査して、学校関係者評価委員会に送り、評価結果については、改善に取り組んでいる。自己評価の結果は文部科学省のガイドラインに則り、ホームページで公開している。学校関係者評価委員の選任に関しては、学校評価ガイドラインに基づき、必要な委員を選任している。評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。評価結果を取りまとめ、ホームページにて周知している。職業実践専門課程の規程に基づきホームページにて積極的な情報公開に努めている。

基準 10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

学校の教育資源を活かした社会貢献は、教育活動に支障のない範囲で行っている。また高等学校が行うキャリア教育への支援は、見学会の受け入れ、出張講義等を積極的に行っている。国際交流については、現状、留学生の受け入れにとどまっている。教育のグローバル化が進む中で、専門学校としてどのように関わっていくかが課題である。また、11月に希望者を募り、海外研修を行い、イタリアのアパレル工場、プリント工場での研修を行った。例年、2月の学園祭においてチャリティーイベントを実施し募金活動を行っている。また、学校周辺及び最寄り駅付近の清掃を年間通して実施している。

学校関係者評価委員からの主なご意見・対応等

<教育活動について>

【意見】技術の強化が方針として打ち出されていたが、あくまでも社会人教育の修得と技術教育の修得は50:50と考える。両方が必修である。

【対応】「技術力の向上」「社会人基礎力の向上」「実践教育の推進」を平成30年度重点目標「学生の質の向上」の具体的な取り組み施策として活動しています。

【意見】アパレル業界は尻つぼみである。服飾のカテゴリーを超えた教育を考える必要がある。

【対応】「技術力の向上」「社会人基礎力の向上」「実践教育の推進」を教育の柱としながら、将来を見据えたIT関連（コンピューター関連授業）の充実が重要と考えています。

【意見】留学生には就職する前に日本語力向上のサポートをしてあげて欲しい。

【対応】H30年度3名（中国、ネパール、ベトナム）入学したが、日本語力が弱い。後期、留学生対応の一般常識の授業を行います。（正規授業か、授業外で行うかは検討）

【意見】学内コンテストはとても良い。プレゼン力や自己、他己評価する力が身に付く。作品や発表に対し、評価基準を設け評価し、学生にも理解させる必要がある。作品審査会では学生にお互いで評価させる癖を付けさせると良い。見比べて気付かせることも大切。

【対応】平成30年度、モデリストコースでは授業での製作物1、2年生各4回、学内技術審査会（コンテスト）を実施していきます。第1回目としてスカート審査会を開催しました。各人プレゼンテーションをして、評価基準を5項目設定して、教員・自己・学生間での評価を行いました。技術力とプレゼン力向上の意識付けが高まった点で大変有意義な結果となりました。

【意見】アパレルはワクワク感がベース。得意、不得意は誰にでもあるので、興味を持っていることをまず伸ばしてあげて欲しい。また、学生と先生の信頼が大切。企業でも手間をかけた人ほど活躍している。

【対応】H30年度より「単位制」「選択授業制」を導入した。必修以外に選択必修・自由選択の幅を広げ、履修出来る様にしました。また実学研修も将来の職種を考えて選択できるように、学科・コース別実習を増やした。また、担任は就職支援にもつながる、きめ細かい個人指導を行い信頼関係を今後も築いていきます。

【意見】成功体験を積み重ねて自信を持たせ、個人の良い部分を引き出すことが必要。

【対応】H29年度後期より自分の強みを知り自信をつけさせる目的で、「LIFOプログラム」を開始しました。

【意見】一般常識に関して、学生同士で出来る人が出来ない人に教えるようになるとレベルの底上げになる。

【対応】グループワークでは会話をしながら調べたりまとめたりすることで、お互いに足りない部分を補い合っているように見えます。出来ない人向けの0限目やフリーゼミナールなどにて特別講習を検討します。

【意見】パタンナー・デザイナーに関して、3~4年学んだ人に比べると2年制はどうしても時間数の点で技術の差がでるし、プレゼン能力も違う。

【対応】パタンナーはカリキュラムを見直し、服飾造形やフリーゼミナールの中でパターンに充てる時間数を増やすことを検討し対応します。パタンナーはカリキュラムの見直しと共に希望者には0限目講習等でパターン対策時間を増やす事を検討します。

【意見】論理的な話が出来る様に訓練することが重要。

【対応】採用試験でも、グループディスカッション、プレゼンテーションが増えていきます。「就職ガイダンス」「一般常識」「イベント企画」でグループワークを実施して、発表の場を増やし対応しています。また、今年度より開始した技術審査会でも作品のプレゼンテーションをさせています。更に個別には就職活動の面接指導で訓練しています。

【意見】入口も考え、技術面を強化し魅力あるカリキュラムを考えて欲しい。

【対応】技術力の向上を H30 年度の重点目標として、他校との比較において、カリキュラムの見直し（技術系の科目別授業時間数）を出来るものは後期から行っていきます。

<学修成果について>

【意見】卒業生ネットワークの確立、Facebook・Twitterなどで華学園ページを作り、情報の告知や情報収集する必要がある。

【意見】デザイナー、パタンナーの採用は2年以上履修した人が選考に残っている（コンテストに多数出ている作品数の多さ）ので専門課程のコースを増やす等が今後の課題である。

【対応】現在専攻科（2年卒業後の1年制）を置いているが、学生は希望しません。コースを増やす等も現状計画していません。重点目標の技術力の向上と社会人基礎力の向上で学生の質の向上に取り組んでまいります。

【意見】アパレル企業では留学生の採用が増えていることも視野に入れた方が良い。

【対応】留学生の専門学校進学希望者が増えています（H29年度 OC 参加者 10名、入学者 3名）。3名とも日本での就職を希望している。H30年度は8月以降、日本語学校を訪問し OC への参加を促す。また留学生特典も設定しました。

<学生募集について>

【意見】他校との違いを明確化した方が良い。

【対応】現在、HPやパンフレットでは「7つの選ばれる理由」としてありますが、他校との違い、華の強みをもっと絞りこんで明確にするように検討致します。

【意見】Twitter・Facebookなど SNS への定期的 UP や YouTube などに動画 UP 等、常に情報発信するべきである。

【対応】現在は教員が順番でブログアップをしているが、まだ常時更新が難しい部分があります。SNS 委員を作り推進していく等検討していきます。

【意見】留学生確保をする上でホームページでは日本語以外でのインフォメーションを載せる必要がある。

【対応】留学生のページを作り、まず日本語の表現を易しくして、漢字に振り仮名を振る等対応します。日本語以外のインフォメーションに関しては今後検討します。

【意見】在校生から母校（高校）へメッセージを伝えてはどうか。

【対応】ガイダンスや見学会、学園祭に在校生も、同行させ近況報告する、ガイダンス等で高校に訪問するスケジュールに合わせて母校へのメッセージ、近況報告を在校生から聞き取り調査し訪問者が高校へ伝える等検討します。